

派遣国	ベトナム	派遣都市	ダナン
出国年月日	2018年2月22日	帰国年月日	2018年3月25日
法政大学の共催団体名（受入団体名）	FPT		
主な活動内容	IT企業のマーケティング部門でインターンシップ		

1. 活動内容
<p>ダナンに到着して最初の4日間はホストファミリーのもとでお世話になった。ホストファミリーには様々なところへ連れて行ってもらった。ホイアンやダナン市街やビーチや日本では経験できないことを経験し、見られないものをたくさん見た。</p> <p>次の週からはインターンシップが始まった。私は、Axon Active VietnamというIT企業（オフショアソフトウェア開発）でマーケティング部門に配属された。コーディネーターの方に、まずは企業について何も理解していないとマーケティングなど始められないと言われ、自分なりに企業について調べ、レポート・プレゼンテーションを作った。企業の基本的なことを学んだ後、私は新しい顧客探しを任された。現在Axon Activeは日本企業を新しい顧客として取り入れることを視野に入れている。日本の新しい顧客を探すとともに、私は日本企業は海外企業と仕事をしていくにあたって何を重要視するのかなどをまとめた資料を作った。まだ日本企業についてあまり知らないAxon Activeには助かる資料になったようだ。その他に企画会議などにも参加させてもらった。</p>

2. 特筆すべきエピソード
<p>最初の2、3日は企業の基本的な情報集めだけで、とても退屈でつまらないと感じていた。しかし、その考えは正しくないと気が付いた。企業の基本情報というのはマーケティングをするにあたってとても重要なタスクであることに気が付いた。マーケティングというのは企業の「価値」をどのようにしたらお客さんに提供することができるかを考えることだと思っている。自分の企業の強みや弱点を知らずに「価値」を提供できるわけがないと感じた。最初の2、3日はひたすらインターネットで企業について調べていたが、これでは企業の「全て」について知れないと思い、自分で社員全員に向けたアンケートを作成した。コーディネーターの方にそのアンケートを全社員に送ってほしいと頼んだところ、ダナン部署のディレクターに話を通してもらい許可を得ることができた。アンケートは全社員に配られ、その回答をもとにレポートとプレゼンテーションを作成することができた。一見楽そうで退屈な仕事というのは、本当は楽でもないし退屈でもない。自分自身が楽をしているだけで、実はやることやれることはたくさんある。自ら行動をしていかないと何も始まらないし、何も得られないのだと感じることができた。</p>

3. 苦勞したこと

社員のほとんどの人の母国語はベトナム語だ。仕事中でも社内でも大体はベトナム語で話している。彼らは英語も話すことができるのだが、日本人からしたらとても聞き取りにくい英語であった。そのため、私は他の社員とのコミュニケーションをとるのにとっても苦勞した。彼らの英語を頑張って聞き取ってコミュニケーションをとることしかできなかった。ベトナム語になると本当に何も分からないので、何度かミスコミュニケーションがあった。お互いがお互いを理解するのは仕事をするにあたってとても重要な部分である。今後海外で活躍していくには、世界共通語である英語をもっと上達させていくべきだと感じた。

日常生活で苦勞したことは、食べ物と体調だ。ベトナム料理はとても美味しいのだが、何度かお腹に合わないときがあった。それに加え私は、インターンシップ中にインフルエンザにかかってしまった。何日間かインターンシップを休んでしまった。社会に出て1日会社を休むだけで、たくさんの人に迷惑がかかってしまうと思う。体調管理はしっかりするべきだなと感じた。

4. 身に付いたこと

私はインターンシップを通して1日の出来事を毎日振り返るということを身につけた。普段は振り返りなどをするような習慣はなかったが、インターンシップで仕事をおこなって、何がよくできて何がよくできなかったかを考えてメモに残しておくようになった。毎日仕事をしていると前の日やそれ以前のことを忘れやすくなる感じた。しっかりと振り返ることによって次の日や今後の助けにもなる。何を改善すべきか、何を維持していくべきかなどが分かってくる。毎日の振り返りで気が付いた点を活かしていくことがとても刺激てきなものだと感じた。

5. 今回の経験を経て感じる「グローバル人材」像とは何か

今回の経験を経てグローバル人材に必要なものは異文化理解と多様な環境のなかでどれだけ自分から率先して行動していけるかだと思った。

人は異なる文化の中で生きている。文化によって生き方、価値観、ビジネスの仕方、色々な面で違いが見えてくる。その違いの中に適応し、文化を理解することによって新しい知識や考え方が身についていく。インターンシップを通してベトナムという異なる文化の中で仕事をしてこのように感じた。文化の「違い」を有効に活用できる人がグローバル人材である。そして「違い」があるかといって、遠慮して行動しないというのは機会とチャンスをどんどん逃している。このような環境の中でも、自ら率先して行動し何かを得ようとする心が大事だと思った。

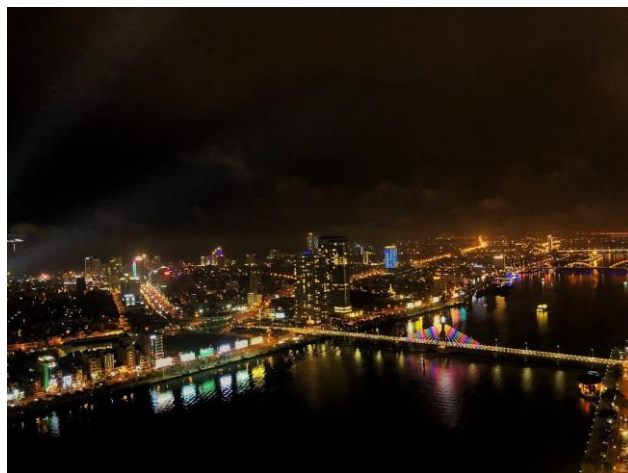
6. 後輩へのメッセージ

私は、このインターンシップを応募したことは行くことが決まるまで親に伝えませんでした。「行きたい」、「やってみたい」という感情を少しでも抱いたらこのインターンシッププログラムを応募してみるべきだと思います。お金のことや親の許可などは後で考えればいいことだと思います。自分が少しでもやってみたいというものには積極的に挑戦していくべきです。やってみたいのにやらなかった後悔は相当大きい悔いが残ってしまいます。みなさんには是非参加してもらいたいと思っています。日本では経験できないような環境で働き、様々なことを得てください。

7. 写真



インターンシップ先の企業



SKY36 というお店から見える市街の様子



お世話になったホストファミリー



インターンプログラムと一緒に参加した法政のみんなと現地でお世話になったコーディネーター

以上